

「surgical rescue の現状調査」に対するご協力をお願い

研究代表（責任）者 佐々木 淳一

研究機関名 慶應義塾大学医学部

（所属） 救急医学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

研究実施許可から過去5年間および2027年3月31日までの期間に他科に入院中で、要請により救急科にて外科的介入を行った方

2 研究課題名

承認番号 20231125

研究課題名 surgical rescue の現状調査

3 研究組織

研究代表機関

研究代表者

慶應義塾大学病院・慶應義塾大（救急医学教室 教授）（佐々木 淳一）
学医学部

4 本研究の目的、方法

近年、世界的な外傷症例の減少、画像診断や IVR（interventional radiology）による非手術的治療の発達を背景に 2005 年に米国外傷外科学会が外傷外科医の役割を外傷診療に加えて内因性救急外科、術後重症患者管理を加えた Acute Care Surgery という概念を提唱しました。近年ではその三本柱に、術後や処置後の合併症のみならず蘇生に外科的介入が必要となる症例を対象とした

surgical rescue という概念が加わってきており、介入による予後改善の報告が散見されています。Surgical rescue による治療成績の向上も報告されているため、当院における surgical rescue の現状を調査することで、必要性の再認識や今後の課題を検討することを目的としています。研究実施許可から過去5年間および2027年3月31日の期間に surgical rescue の介入を受けた患者さんの診療情報を利用し、その際に行われた介入方法とその後の経過の関連を調べます。

5 協力をお願いする内容

診療記録を閲覧し、カルテ情報から、以下のデータを収集します。

○患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、入院時併存症名、内服薬

○治療関連情報：入院主傷病名、入院の緊急性、手術の有無、手術名、介入開始時のバイタルサイン、内容

○手術以外の治療関連情報：術前・術中・術後の輸血量、抗菌薬使用期間

○転帰：surgical rescue による治療から終了までの日数、surgical rescue による治療開始後の手術関連あるいは surgical rescue による治療関連合併症（腸瘻、縫合不全、創し開、腹壁癒痕ヘルニア、SSI）、surgical rescue による治療開始 28 日後死亡率、28 日目までの ICU free days、Ventilator free days、RRT free days、hospital free days、surgical rescue による治療開始後 7 日後の臓器障害（SOFA, APACHE II スコア）、surgical rescue による治療を必要とした手術の手術時間

○研究対象者数等：研究対象者総数、すべての研究選択基準を満たした患者数、いずれかの研究除外基準を満たした患者数（除外基準ごと）

6 本研究の実施期間

研究実施許可から 2028 年 3 月 31 日までの期間

7 外部への試料・情報の提供

該当なし。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用や他の研究機関への提供（研究内容に応じて適宜記載）の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

堀越 雄一郎

慶應義塾大学医学部救急医学教室

連絡先(電話 03-3225-1323, FAX 03-3353-2232, E-mail: yuichiro_horikoshi@keio.jp)

以上